

# 令和 2 年度事業計画

自 令和 2 年 4 月 1 日  
至 令和 3 年 3 月 31 日

一般社団法人日本透析医学会

## 目 次

1. 総務委員会	(1)
2. 財務委員会	(4)
3. 編集委員会	(5)
4. 学術委員会	(6)
5. 統計調査委員会	(7)
6. 専門医制度委員会	(8)
7. 国際学術交流委員会	(12)
8. 評議員選出委員会	(13)
9. 保険委員会	(13)
10. 倫理委員会	(13)
11. 腎不全総合対策委員会	(14)
12. 危機管理委員会	(15)
13. 研究者の利益相反等検討委員会	(16)
14. 男女共同参画推進委員会	(17)

## 1. 総務委員会

### 1) 年次学術集会

第 65 回日本透析医学会学術集会・総会は、大阪市立大学大学院医学研究科 代謝内分泌病態内科学・腎臓病内科学 教授 稲葉雅章会長が主宰し、2020 年 6 月 12 日（金）、13 日（土）、14 日（日）の 3 日間、大阪国際会議場を会場として開催する。

今回のテーマは「人生 100 年時代を迎えた透析患者健康寿命延伸に向けて」を掲げて開催する。

#### <海外招聘者>

Mario Cozzolino (University of Milan, ASST Santi Paolo e Carlo, Italy), Markus Ketteler (Robert-Bosch-Krankenhaus, Germany), Francesco Locatelli (ASST Lecco, Alessandro Manzoni Hospital, Italy), Bruce M. Robinson (Arbor Research Collaborative for Health, USA), Pablo Antonio Urena Torres (AURA Nord Saint Ouen, France), Christoph Wanner (University Hospital Wuerzburg, Germany)

#### <特別講演>

秋澤忠男（昭和大学医学部 内科学講座腎臓内科学部門）

西澤良記（公立大学法人大阪）

#### <招請講演>

秋下雅弘（東京大学大学院医学系研究科 老年病学）

植松 智（大阪市立大学大学院 医学研究科 ゲノム免疫学）

小山英則（兵庫医科大学 内科学 糖尿病内分泌・免疫内科）

下村伊一郎（大阪大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学）

藤井美和（関西学院大学 人間福祉学部・人間福祉研究科）

宮田敏男（東北大学大学院医学系研究科 分子病態治療学）

横尾 隆（東京慈恵会医科大学 腎臓・高血圧内科）

#### <教育講演>

「透析患者のケア—導入時の注意点」, 「骨生検」, 「透析室における安全対策」, 「CKD 患者の病態を診る」, 「骨作動薬」, 「カルニチン欠乏と各種病態」, 「透析患者の栄養管理」, 「透析患者の治療—重症下肢虚血」, 「透析患者の病態（合併症）を診る—認知機能と睡眠障害」, 「透析患者の治療—感染症」, 「透析医療現場での災害対策」, 「医療安全」, 「サルコペニア・フレイルを合併した保存期 CKD の食事療法」, 「サルコペニアの実態と治療」, 「HDF の原理から実践」, 「透析患者の治療—種々の modality の長所と欠点」, 「統計調査からみる日本の透析医療—海外との比較—」, 「高齢女性の婦人科疾患の関連のご講演」, 「フットケア」, 「透析患者の病態（合併症）を診る—骨代謝と骨折」, 「透析患者の治療—貧血」, 「透析患者の病態（合併症）を診る—PD の血糖管理」, 「透析患者の病態（合併症）を診る—冠動脈疾患」, 「透析患者の病態（合併症）を診る—脂質管理」, 「透析患者の血圧管理（血圧低下も含めて）」, 「透析患者の病態（合併症）を診る—心臓弁の石灰化, 心不全」, 「透析患者の治療—脳卒中治療 uptodate」, 「腎移植の最前線」, 「様々な透析療法」, 「添加無期リン」, 「透析廃液管理について」, 「慢性腎臓病（CKD）医療の現況と対策」, 「透析患者の病態（合併症）を診る—DKD」, 「透析液組成」, 「臨床研究法」, 「バスキュラーアクセス」, 「透析液カリウム濃度」, 「透析患者の病態（合併症）を診る—QOL」, 「透析患者の皮膚病変, 掻痒症, むずむず脚症候群」, 「透析患者の治療—歴史」, 「AKI・急性血液浄化」, 「臨床研究の統計解析」, 「透析患者におけるオーラルケア」, 「労働環境の改善を目指して」, 「コメディカルのための臨床研究入門」, 「透析患者の医療安全」, 「透析を円滑に行うための多職種連携」

#### <他学会との合同企画>

日本骨粗鬆症学会・日本透析医学会合同企画：「透析患者における運動器障害と骨粗鬆症薬物治療」, 日本痛風・尿酸核酸学会・日本透析医学会合同企画：「尿酸代謝の最前線」, 日本老年医学会・日本透析医学会

合同企画「透析療法におけるサルコペニア・フレイルの意義を考える」, 透析運動療法研究会・日本透析医学会合同企画「透析患者の運動療法を具体的にどう進めるか」, 日本腎臓リハビリテーション学会・日本透析医学会合同企画「透析患者でのリハビリテーション運動療法の意義」, 日本腎臓学会・日本透析医学会合同企画「保存期から透析導入へのスムーズな transition のために」, 日本腹膜透析医学会・日本透析医学会合同企画「腹膜透析療法ガイドラインと実際・今後の展望」, 日本心血管インターベンション治療学会・日本透析医学会合同企画「透析患者の心血管イベントへの介入治療戦略」, 日本睡眠学会・日本透析医学会合同企画「慢性腎臓病・透析患者の睡眠障害: QOL 改善にはどう立ち向かうか?」, 日本腎臓病薬物療法学会・日本透析医学会合同企画「こうすればうまくいく透析患者の薬物治療管理法」

#### <シンポジウム>

「透析患者における血管石灰化の診断と防止の意義」, 「CKD-MBD KDIGO と日本のガイドラインについて: 未来の改訂に向けて」, 「透析患者の糖尿病に対する薬物治療」, 「透析患者の低栄養対策」, 「透析患者の脳と認知機能」, 「腎性貧血治療の新たな治療: HIF-PH 阻害薬 (New therapy against anemia in CKD: HIF-PH inhibitor)」, 「透析患者における末梢動脈疾患～予防・早期発見の重要性と治療課題」, 「新しい血液浄化モダリティ 人生 100 年時代に向けての展望」, 「バスキュラーアクセス管理と治療におけるエコーの活用」, 「バスキュラーアクセス (PTA) (安全・確実な VAIVT をめざして)」, 「高齢者透析患者に対する臨床工学技士の役割」, 「腎不全看護に必要な多職種連携の意義と成果」, 「透析患者のこころの診かた～多職種で考えるサイコネフロロジー～」, 「透析医療における働き方改革とタスクシフティング」, 「High Impact Clinical Trials」, 「医療経済性から慢性腎不全医療の未来を考える」, 「透析患者の難治性病態の Up to date」, 「アジアの透析事情と日本からの援助活動」

#### <ワークショップ>

「CKD-MBD の展望」, 「糖尿病透析患者の血糖管理指標～グリコアルブミン (GA) を再考する～」, 「最新技術の透析患者への応用と糖尿病管理の実際」, 「サルコペニア対策を目指した栄養サポートの実践」, 「新時代を迎えた慢性腎臓病に伴う貧血管理」, 「人生 100 年時代における PD の利点を再考する」, 「血圧異常 (高血圧・低血圧) の管理の実際」, 「バスキュラーアクセス」, 「腎不全看護に関連する資格制度とその実践」, 「透析医・腎臓内科医に知ってもらいたい腎移植」, 「慢性腎臓病・腎代替療法における多施設・多職種連携」, 「長時間透析」, 「Fabry 病の透析医療を含む診断と治療の Update」, 「多発性嚢胞腎 (ADPKD) 透析患者にどのように向き合うか」

#### <学会・委員会企画>

腎不全総合対策委員会: 「高齢者腎不全医療の現在と未来」, 保険委員会企画: 「新たな診療報酬改定が透析医療に及ぼす影響」, 国際学術交流委員会・統計調査委員会: 「The most urgent topic we have to face in each registry」, 男女共同参画推進委員会「TSUBASA PROJECT-透析と GENDER-」, 専門医制度委員会: 「専門医制度の現状と展望」, 統計調査委員会: 「WADDA システムを用いた臨床研究の勧め」, 「JRDR エビデンスに基づいた臨床パターンの提案」, 学術委員会: 「Dialysis therapy, Year in review 2019」, 危機管理委員会: 「透析災害対策のアップデート」, 総務委員会: 「日本腎代替療法医療専門職推進協会の創設に向けて」, 学術委員会: 「血液浄化の新技術～人生 100 年時代に向けての展開～」, 「維持透析患者に対する静脈栄養剤投与ならびに経腸栄養に関する提言」

#### <企業セミナー>

モーニングセミナー, ランチョンセミナー, スイーツセミナー, イブニングセミナー

#### <市民公開講座>

日時: 2020 年 月 日 ( )

会場:

#### <その他>

6 月 12 日 (金) 感染講習会

6月13日(土) 医療倫理講習会

6月14日(日) 医療安全講習会

6月14日(日) 日本透析医学会認定透析液水質確保に関する研修

※詳しくは総会ホームページをご確認ください。

## 2) 通常総会・臨時総会

(1) 第65回通常総会開催：2020年6月11日(木) 16:00~17:30

(2) 臨時総会開催：2020年6月11日(木) 17:30~18:30

(3) 学会賞・奨励賞授与式および講演会開催：2020年6月13日(土)

## 3) 役員会

(1) 常任理事会・理事会開催：2020年5月29日・6月11日・6月11日(臨時)・8月・12月・2021年3月

(2) 監事による監査会開催：2020年5月13日(水)

## 4) 透析施設会員名簿の発行

施設会員名簿は例年どおり発行されるが、個人情報保護の観点から、電話番号や責任者氏名などの公表を希望しない施設については、引き続きその情報を掲載しない方針である。

また、会員専用ホームページに検索マップを開設し、施設・賛助会員の検索ができるようにしたが、さらなる充実を図るとともに個人情報保護の観点から、施設の公表を希望しない場合には情報を掲載しない方針である。

## 5) 小委員会

### (1) 情報管理小委員会

学会ホームページの円滑な運営、内容充実を図る。

① 学会活動ならびに関連情報の迅速な公開・更新を行う。

② コンテンツを見直し、逐次更新する。

### (2) 透析医療専門職資格検討委員会

「日本腎代替療法専門職推進協会」の設立に向けて、定款、関係諸規則を整備し、2020年度内に法人登記を行う。

### (3) 感染調査小委員会

本小委員会は院内感染などの集団発症が発生した時には、関係者の協力を得て機動的に対応するとともに、感染症にかかわる諸問題が発生した場合に迅速に対応する。また、今後発生の頻度が高いと思われる感染症の事例に機動的に対応する。「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン」の改訂に協力する。

### (4) 統計調査のあり方小委員会

① あらたな諸法の整備に適應して、統計調査実施の倫理基盤の確認を行う。

② 統計調査結果の解析、論文化の計画の明確化、会員施設へのインセンティブを検討する。

③ 統計調査委員会と意見交換を行い、統計調査のIT化の方向性を模索する。

### (5) 発展途上国の透析スタッフ育成プログラム小委員会(山下明泰委員長)

① 2020年度の研修プログラムは、国際血液浄化学会(横浜)が開かれる令和2年10月に実施し、研修生が同学会に出席できるように配慮する。

② 中止した2019年度の研修プログラムで受け入れを予定していた研修生を、2020年度の研修生とともに受け入れるか否かについては、肺炎に対する懸念を勘案しながら、できるだけ早期に検討する。

③ 発展途上国におけるコンソーシアム(仮称)の設立

アジア各国で本小委員会メンバーが設立・運営に関わった腎臓学会・透析医学会が、本学会との間に友好関係にあることを明確にし、今後一部の事業において提携することを前提としてコンソーシアム(仮称)設立に向け協議を進める。

(6) 本学会のあり方小委員会

- ① 公益社団法人への移行について継続した審議・検討を行う。
- ② 一般の人にも分かりやすい本学会の立ち位置・特徴などについて検討し公開していく。特に現在重要な案件である透析専門医に関して日本専門医機構との意見交換を行いながら、認定に向けて検討を進める。

(7) e-ラーニング検討小委員会

- ① 2020年6月開催の第65回学術集会・総会における生涯教育プログラムの教育講演から座長・演者の同意を得て、スクリーンアウト方式の動画を収録しコンテンツとする。コンテンツには「医療安全」、「災害」、「倫理」、「感染」を含むように配慮する。
- ② 各演者には試験問題の作成を依頼し、e-テストにより専門医更新の単位認定に利用する。専門医の単位認定は、連続した60分の講演1回または30分の講演2コマを連続して視聴し試験に正答することで1単位を認定、年間5単位、5年間で25単位を上限とする。ただし学術集会に参加してすでに生涯教育プログラムの5単位を取得した者は同年度のe-ラーニングでの単位は認定しない。
- ③ 単位認定を希望する者は認定料3,000円を支払う。運用については専門医制度委員会と適宜意見交換を図る。なお、専門医以外の正会員（専攻医を目指す医師を含む）及び施設会員に所属する医療従事者もスキルアップのための視聴可能とする。配信の開始時期などは本学会ホームページ及び会誌の会告で会員に通知する。

(8) 病気腎移植に関する検討小委員会

2017年10月29日 病気腎移植（修復腎移植）が先進医療Bとして厚生労働省に認可された。これに対して、日本泌尿器科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会、日本臨床腎移植学会、日本移植学会の5学会は合同で、外部委員からなる適切な当該医療の検証（外部委員派遣）が必要であるとの声明を出した。申請医療機関からの申請に対して、日本透析医学会は事前検証としての外部委員選定を2018年度に行った。「その後の進捗であるが、現在まで先進医療B症例は、当該医療機関から申請されていない。」

本年度においても、申請医療機関からの修復腎移植申請のあった場合には、速やかに外部委員を派遣し、レシピエント、ドナーの双方に不利益が生じないように、先進医療を注視していく任を遂行する。

(9) 会員管理システム業者選定小委員会

納品のあった新規会員管理システムを検収し、稼働が確認された後休会とする。

(10) 書籍発行運営委員会（重松 隆委員長）

日本透析医学会ブックシリーズとして、今後も本学会が発行する書籍等出版事案について検討する。

すでに日本透析医学会ブックシリーズ1（腹膜透析ガイドライン2019）に続き、以下に示すシリーズ（2）と（3）が計画中である。ただし、これらの事業は学術委員会との連携が必須である。

（2）透析患者における糖尿病診療ガイド2020

（3）慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン2020

6) 学会との連携、協力関係

- (1) 日本医学会、(2) 日本医学会連合、(3) 日本医師会、(4) 日本慢性腎臓病（CKD）対策協議会、(5) 透析療法合同委員会、(6) 内科系学会社会保険連合、(7) 外科系学会社会保険連合、(8) 臓器移植関連学会協議会、(9) 末期腎不全治療説明用小冊子作成、(10) 糖尿病性腎症合同委員会、(11) 登録腎生検予後調査検討委員会、(12) 先行的献腎移植申請検査会、(13) 透析療法に関するグランドデザイン、(14) 日本透析医会との連絡協議会、(15) 日本医療器材工業会と日本透析医学会の連絡協議会等と協力、連携を密にしていく。

## 2. 財務委員会

平成20年12月に新公益法人制度が施行され、これに伴い本学会も平成24年9月3日付けをもって、一般社団法人に移行した。一般社団法人への移行とともに本学会の財務管理を平成20年度改正の新・新公益法人会計基準

に則り、新・新基準による経理を実施し、貸借対照表及び正味財産増減計算書等を軸とした本学会活動の正確な各事業別損益の把握をして、より適切な財務管理を目指す。

以上を踏まえて、税務を含めた適正な会計処理を継続的に遂行し、学会として各常置委員会、小委員会の諸事業を積極的に推進し、多大な成果が得られるよう財務を通じて協力助成するとともに財務業務の全般的な見直しを継続して検討する。

### 3. 編集委員会

#### 1) 公式和文誌「日本透析医学会雑誌」について

- (1) 日本透析医学会雑誌を毎月1冊、年間12冊を発行する。
- (2) Year in Review 2019 原稿の投稿を受け、2020年和文誌53巻12号に掲載する。
- (3) 統計調査委員会の年末調査報告「わが国の慢性透析療法の現況」を2020年和文誌53巻12号に掲載する。
- (4) 学術集会・総会特別号(抄録集)をSupplementとして発行する。ただし郵送は希望者のみに限定する。
- (5) 年間1~2回を目安として特集号を組む。

#### 2) 公式欧文誌 Therapeutic Apheresis and Dialysis (TAD) について

- (1) 国際アフェレシス学会・日本アフェレシス学会と共同で引き続き年6回刊行する。
- (2) 公式欧文誌からの離脱を、国際アフェレシス学会・日本アフェレシス学会と出版社であるWiley社に伝達する(実際の離脱は計画に基づき1年後となる)。

#### 3) 公式欧文誌 Renal Replacement Therapy (RRT) について

- (1) 引き続きWeb JournalとしてOpen Journalの形式で、CC-BYの著作権で引き続き発行する。
- (2) Google Scholar並びにDOAJ, Scopus, ProQuestでのIndex化(完了)に続き、本年度中にPubMed CentralでのIndex化の再申請を2020年中に行い登録を目指す。
- (3) 他の検索システム(Embase, MEDLINE, Science Citation Index, ESCI, Web of Science etc.)などへのIndex化も調査を行い、順次手続きを可能な限り進めていく。
- (4) 日本小児腎不全学会のRRT誌のOfficial Journal化を、(すでに両学会の理事会にて承認あり)登録作業を進める。
- (5) 国内の関連領域他学会からの希望があれば、RRT誌のOfficial Journal化を検討する。  
現在、候補となっている学会は以下である。
  - ・日本血液浄化技術学会
  - ・日本腎不全看護学会
- (6) 2020年度は各学会からの合計8編以内のPosition Statement論文掲載を予定する。投稿があれば、一般社団法人日本透析医学会以外のRenal Replacement Therapy (RRT)を公式欧文誌として採用する学会からのPosition Statement論文も受理掲載する。
- (7) 2020年度は投稿数100編を目標とする。
- (8) すでに採用済の海外からのAssociate Editor並びにEditorial Board Memberをさらに増員する。なお新規には本邦在住者も増強が必要な状況であり、採用各学会に人材の推薦を依頼する。
- (9) 掲載論文の英文の質の向上と統計手法の正確さを追求する。その結果で、アクセプト率の低下も許容する。

## 4. 学術委員会

### 1) 学会賞・奨励賞の選出

選考規程に則って学会賞・奨励賞の選考を行い、理事会の承認を得る。

### 2) 学術委員会活動（ガイドライン、提言等の作成、広報活動）等に関する協議

学術委員会の会合を定期的で開催し、学術委員会関連小委員会と共同して、実施すべき学術活動に関して協議・遂行する。

### 3) 学術専門部小委員会（小岩文彦委員長）

(1) Dialysis Therapy, 2019 year in review を第 65 回学術集会・総会（令和 2 年 6 月）において委員会企画として開催する。

(2) 2020 年中に Dialysis Therapy, 2019 year in review を学会誌に掲載するため、各演者の先生に投稿を依頼する。

### 4) 栄養問題検討ワーキンググループ（菅野義彦委員長）

透析患者における低栄養への介入について第 65 回学術集会・総会で議論を行う。

### 5) 腹膜透析ガイドライン改訂ワーキンググループ（伊藤恭彦グループ長）

「日本透析医学会診療ガイドライン作成指針」に則り改訂作業を継続して行った。

パブリックコメントを求め、公聴会を開き意見を集約し、訂正事項をホームページに公表した。理事会承認を得て最終の形とし、11 月に JSDT ブックシリーズ 1 として出版した。今後は Part 1 を各章ごとに要約し、英文化して、RRT に投稿する。

### 6) 委員会活動

#### (1) 学術専門部小委員会（小岩文彦委員長）

① Dialysis Therapy, 2019 year in review を第 65 回学術集会・総会（令和 2 年 6 月）において委員会企画として開催する。

② 2020 年中に Dialysis Therapy, 2019 year in review を学会誌に掲載するため、各演者の先生に投稿を依頼する。

#### (2) 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会・ISO 対策ワーキンググループ合同委員会（友 雅司委員長）

① 日本透析医会、JACE との 3 団体共同「透析排水管理ワーキンググループ（峰島三千男委員長）」：透析排水の適正管理についてさらなる検討を行い、その成果の啓発を行う。

② 透析装置の標準化ならびに透析器・血液回路一体型の有用性について、日本臨床工学技士会、日本医療機器テクノロジー協会（MTJAPAN）と共同で検討し、推進する。

③ ISO 並びに IEC 会議に委員を派遣し、最新の動向を把握する（川西秀樹委員長）。

④「頻回・長時間血液透析における機能・効率と安全性の検討ワーキンググループ（峰島三千男委員長）」一定の成果が得られたため、2020 年度は活動を中止する。

⑤ ヘモダイアフィルタの機能分類について引き続き検討する。

#### (3) 血液浄化に関する新技術検討小委員会（山下明泰委員長）

① 第 64 回学術集会・総会に引き続き、第 65 回学術集会・総会（令和 2 年 6 月）においても、委員会で議論した成果を、血液浄化に関する新技術検討小委員会企画「血液浄化の新技術～人生 100 年時代に向けての展開～」で発表する。

② 委員の役割を再検討し、委員間でのコラボレーションを加速する。また、臨床応用を具体化するために、検討項目（特許、PMDA の判断など）の解決を図る。

③ 委員会は年に 2～3 回開催する。各委員の研究進捗のみならず、研究費体制等の問題点解決に向けて、委員相互の協力体制を強化する。

④ 他の学術集会（第 29 回日本次世代人工腎臓研究会（大阪、令和 2 年 8 月）など）においても成果の一

部を公表し、臨床応用に向けて企業への情報発信にも注力する。

(4) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会（阿部雅紀委員長）

① 体験参加型セッションの開催

② 学会ガイドライン・指針・委員会報告の内容を基にしたわかりやすいセミナーの開催

(5) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会（友 雅司委員長）

例年通りの方法で適切な応募研究課題の中から選考する。

(6) 透析医学用語集作成小委員会（土谷 健委員長）

先の透析医学用語集が平成 19 年度のものであり、新しい用語・古くなった用語等もあるので、基本的に用語集を改訂する方針とし、実際の作業を開始する。

関連学会として、「日本腎臓学会」「日本アフェレシス学会」及び「日本急性血液浄化学会」からの委員に参加を仰ぎ、「日本腹膜透析医学会」に可能なら委員の派遣を依頼する。日本腎臓学会も用語集改訂の方針とのことであり、日本腎臓学会用語委員会と連携して用語集の改訂に向けて活動する。

(7) 透析患者に対する静脈栄養剤投与ならびに経腸栄養に関する提言検討委員会（猪阪善隆委員長）

透析患者に対する静脈栄養剤の禁忌事項記載の見直しがされる予定であり、日本透析医学会では、透析患者に対して静脈栄養剤あるいは経腸栄養剤を投与するうえでの注意点ならびに、透析患者に対する静脈栄養剤・経腸栄養剤投与は低栄養の改善に役立つかという点について、委員会で検討を行い、2020 年 6 月頃を目途に提言を出す予定である。

## 5. 統計調査委員会

1) 2019 年 12 月 31 日現在のわが国の慢性透析療法の現況の調査・報告

(1) 2019 年調査結果を 2020 年学会誌 12 号、RRT 誌に掲載する。

(2) 2019 年調査結果の CD ロムを作成し、調査協力施設に送付する（会員への CD ロム配布は今年度で最終となる予定である）。

(3) 本学会和文、英文のホームページに調査結果をアップロードする。

(4) 2019 年調査結果を統計調査データベース、WADDA システム、学術研究用データ切出しシステムに取り込む。

2) 2020 年 12 月 31 日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査

(1) 2020 年調査の新規調査項目を設定する。

(2) 2020 年の調査計画について倫理審査依頼をし、承認後 UMIN に公開する。

3) データベース構造、累積生存率に関わる問題の解決

(1) データベース作成の際の名寄せ処理を一部改善する。

(2) データベース作成の際の事務局作業を一部自動化する。

(3) データベースの構造を改修し、保存する内容を一部追加する。

(4) JRDR データベース構築や整備方法、累積生存率の算出方法、問題点などについて会員向けの解説論文を作成する。

4) WADDA システムの活用の推進と精度管理

(1) WADDA システムへの年次取り込みデータへの加工を、現調査委託業者に外注する。

5) 学術研究用データファイル切り出しシステムの構築（継続事業）

(1) より効率的で迅速なデータファイル出力のための運用方法を確立する。

6) 統計調査データにおける研究活動の推進・論文化

(1) わが国の透析医療のノウハウを世界に発信するために、現在までに蓄積されたデータを解析し積極的に論文化を行い、日本人のエビデンスの構築を行い、将来のガイドライン作成等に備える。

- (2) 研究推進を効率化するために、研究計画の一部の解析の外注システムを確立する。
- 7) レジストリ国際協調への課題を明確化する。
  - (1) ISN 主導の途上国におけるレジストリ立ち上げプロジェクトである SharE-RR へ参加する。
  - (2) 国際レジストリ協調に求められる要件の明確化, JRDR の将来の改修方針の明確化
- 8) 第 65 回日本透析医学会学術集会・総会において以下のセッションを開催する。
  - (1) 統計調査委員会・国際学術交流委員会合同企画：Frailty in dialysis population：Present status and the future from the renal registry
  - (2) JRDR エビデンスに基づいた臨床パターンの提案
  - (3) WADDA システムを用いた臨床研究の勧め
  - (4) コメディカルのための臨床研究入門
  - (5) 海外レジストリとの交流会
- 9) 国内・国際協力の推進
  - (1) 日本透析医会を始めとした他学術団体, さらには United State Renal Data System, Australia New Zealand Data System, European Real Association/European Dialysis Transplantation Association 等の海外レジストリと連携し, データ供与や解析を行う。
- 10) 英語版ホームページの充実
  - (1) 日本透析医学会の統計調査の海外への発信力を高めるために, 統計調査のホームページを充実させる。
  - (2) 英語版ホームページには英語版現況報告の PDF, 英語版図説 PPT, 統計調査の歴史やシステム, これまでに発表された論文一覧などを提示する。
- 11) 会員インセンティブの充実
  - (1) 統計調査への理解を深め, 会員のニーズを知るため地域協力員メーリングリストで引き続き積極的な情報提供に努める。
  - (2) 帳票出力システムの利用を推進する。

#### 解析小委員会

- 1) 各小委員は既存データベースを用いて, 慢性透析医療の将来に必要とされるさまざまなテーマについて解析を行い学会報告, 論文化を行う。
- 2) 新たな研究テーマの提案に対して採否の意見をまとめ, 委員会に審議を依頼する。
- 3) 既存研究テーマの進捗状況を小委員会で定期的に報告し, 相互にブラッシュアップする。
- 4) 解析技術向上のため, 外部委員による小委員を対象としたセミナーを開催する。

## 6. 専門医制度委員会

日本透析医学会専門医制度委員会は、血液浄化療法に関連する医学と医療の進歩に即応した優秀な医師の養成をはかるとともに、透析医学の向上発展をうながし、国民の福祉に貢献することを目的として活動し、よりよい専門医制度の実施を目指すための事業計画を策定した。透析専門医として日本専門医機構から認定を受けることを目指して、専門医制度整備指針に準じて、さらなる専門医制度の改定を検討し、ヒアリングに備えている。現行および施行時期理事会一任の専門医制度規則・規則施行細則については、必要に応じて見直しを審議する。

### 1) 専門医制度委員会

- (1) 血液浄化法に関する生涯教育の一環として、全国を細則第 2 条の 10 地区に分け、年 1 回各地区の各地方学術集会にて生涯教育プログラムとして実施している講演会に対して、専門医認定小委員会地区委員および施設認定小委員会地区委員が 1 つの地方学術集会を推薦し、専門医等認定事業経費から助成金を支給する。なお、2021 年度より、北九州と南九州を統合し、10 地区とする。
- (2) 全国規模学術集会、地方学術集会を認定すると、自動継続しているが、認定後も認定基準を満たしてい

るかの確認は必要であり、一定の基準を満たさない学術集会に対し、5年毎に、継続に必要な書類の提出を依頼する。

(3) 各小委員会で整備した内容について検討する。

・研修プログラム小委員会

専門研修プログラム第2版（カリキュラム制＋連動研修）を連動研修ではない内容に修正した専門研修プログラム第3版を作製する。

・カリキュラム小委員会

カリキュラム小項目として、ファブリー病、下水道管理について追加した専門研修指導マニュアル第4版、専門研修トレーニング問題解説集第4版を7月を目安に作製する。

総合診療科を追加した専門研修カリキュラム第3版を作製する。

セルフトレーニング問題の作成を行う。

e-ラーニング問題のブラッシュアップを行い、セルフトレーニング問題のweb化を検討する。

・専門医認定小委員会

専門医と指導医の新規認定と更新を行う。毎年、申請者は業績についての誤認識がある。

適正な専門医数を検討し、対策を講ずる。専門研修基幹施設5名、専門研修連携病院3名、専門研修連携クリニック1名、残りの施設1名とすると、基幹施設は274施設、連携施設は1,054施設、その他施設（2019年2月19日）であり、約6,600人と推定される。現在6,112人であり、数年で超えると思われる。

また、専門医の地域偏在も認める。

これらの問題点をワーキンググループで検討する。

症例要約プログラム集の改訂を行う。

・専門医試験小委員会

専門医試験を実施する。

専門医試験プール問題約700題の中で、優良でない試験問題（優良の定義：正答率50～70%かつ識別指数0.2～0.4以上）をブラッシュアップする。また、新規に問題を作成し、写真や図表問題も多くする。

・施設認定小委員会

認定施設と教育関連施設の新規認定と更新を行う。

日本専門医機構からのヒアリングに備えて、施設群（専門研修基幹施設、専門研修連携施設）の整備を行う。

2) 「倫理の問題」については毎年啓発しており、専門医認定の口頭試験で受験者の倫理観を確認する予定である。

3) 透析専門医としての「質」を継続維持していくために、本学会専門医の更新を目指す医師を対象に「セルフトレーニング問題」を導入しており、カリキュラム小委員会編集会議でブラッシュアップを行い、その問題を学会誌に掲載し、専門医・指導医認定小委員会の厳密な審査で所定の正答率をクリアした専門医には一定の研修単位（5単位）を認定している。なお、専門医更新必須条件であるセルフトレーニング問題正答を認定期間5年の内1回以上正答として実施している。なお、問題は学会誌には掲載せず、応募者に問題・解答用紙（マークシート）を送付し、受付期間は5月1日～5月31日迄で実施し問題・正解・解説は8号に掲載する予定である。

4) 専門医認定審査は、今までと同様に書類審査、客観式筆記試験（問題形式はAタイプ、X2タイプ）、口頭試問試験の3者の総合的な判断で行い、可否を決定する予定である。

5) 専門医認定（専門医認定試験）、専門医認定と更新、指導医認定と更新、認定施設・教育関連施設認定と更新の公示・受付等については下記の通りである。

(1) 第31回専門医認定

申請受付の会告                      2020年3月～5月

申請書類受付 2020年6月1日～6月30日  
専門医認定試験（筆答および口頭による学力試験試問）10月18日（第3日曜日）  
試験会場 都市センターホテル（東京都）

- ・第1回専門医認定（1991年度認定・1996年度更新・2001年度更新・2006年度更新・2011年度更新・2016年度更新）更新認定  
更新申請受付の会告 2020年8月～10月  
更新申請書類受付 2020年11月1日～11月30日
- ・第6回専門医認定（1996年度認定・2001年度更新・2006年度更新・2011年度更新・2016年度更新）更新認定  
更新申請受付の会告 2020年8月～10月  
更新申請書類受付 2020年11月1日～11月30日
- ・第11回専門医認定（2000年度認定・2006年度更新・2011年度更新・2016年度更新）更新認定  
更新申請受付の会告 2020年8月～10月  
更新申請書類受付 2020年11月1日～11月30日
- ・第16回専門医認定（2006年度認定・2011年度更新・2016年度更新）更新認定  
更新申請受付の会告 2020年8月～10月  
更新申請書類受付 2020年11月1日～11月30日
- ・第21回専門医認定（2011年度認定・2016年度）更新認定  
更新申請受付の会告 2020年8月～10月  
更新申請書類受付 2020年11月1日～11月30日
- ・第26回専門医認定（2016年度認定）更新認定  
更新申請受付の会告 2020年8月～10月  
更新申請書類受付 2020年11月1日～11月30日
- (2) 第31回指導医認定  
申請受付の会告 2020年10月～12月  
申請書類受付 2021年1月6日～1月31日
- ・第1回指導医認定（1991年度認定・1996年度更新・2001年度更新・2006年度更新・2011年度更新・2016年度更新）更新認定  
更新申請受付の会告 2020年9月～11月  
更新申請書類受付 2020年12月1日～12月28日
- ・第5回指導医認定（1995年度認定・2001年度更新・2006年度更新・2011年度更新・2016年度更新）更新認定  
更新申請受付の会告 2020年9月～11月  
更新申請書類受付 2020年12月1日～12月28日

・第11回指導医認定（2001年度認定・2006年度更新・2011年度更新・2016年度更新）更新認定  
更新申請受付の会告 2020年9月～11月  
更新申請書類受付 2020年12月1日～12月28日

・第16回指導医認定（2006年度認定・2011年度更新・2016年度更新）更新認定  
更新申請受付の会告 2020年9月～11月  
更新申請書類受付 2020年12月1日～12月28日

・第21回指導医認定（2011年度認定・2016年度更新）更新認定  
更新申請受付の会告 2020年9月～11月  
更新申請書類受付 2020年12月1日～12月28日

・第26回指導医認定（2016年度認定）更新認定  
更新申請受付の会告 2020年9月～11月  
更新申請書類受付 2020年12月1日～12月28日

(3) 第30回認定施設・教育関連施設認定

申請受付の会告 2020年4月～6月  
申請書類受付 2020年7月15日～8月15日

・第3回認定施設・教育関連施設認定（1993年度認定・1996年度更新・2001年度更新・2006年度更新・2011年度更新・2016年度更新）更新認定  
更新申請受付の会告 2020年4月～6月  
更新申請書類受付 2020年7月15日～8月15日

・第5回認定施設・教育関連施設認定（1995年度認定・2001年度更新・2006年度更新・2011年度更新・2016年度更新）更新認定  
更新申請受付の会告 2020年4月～6月  
更新申請書類受付 2020年7月15日～8月15日

・第10回認定施設・教育関連施設認定（2000年度認定・2006年度更新・2011年度更新・2016年度更新）更新認定  
更新申請受付の会告 2020年4月～6月  
更新申請書類受付 2020年7月15日～8月15日

・第15回認定施設・教育関連施設認定（2006年度認定・2011年度更新・2016年度更新）更新認定  
更新申請受付の会告 2020年4月～6月  
更新申請書類受付 2020年7月15日～8月15日

・第20回認定施設・教育関連施設認定（2011年度認定・2016年度更新）更新認定  
更新申請受付の会告 2020年4月～6月  
更新申請書類受付 2020年7月15日～8月15日

- ・第25回認定施設・教育関連施設認定（2016年度認定）更新認定  
更新申請受付の会告 2020年4月～6月  
更新申請書類受付 2020年7月15日～8月15日

## 7. 国際学術交流委員会

1) 第65回日本透析医学会学術集会・総会において、国際学術交流委員会として下記の企画を行う。

### I. 招請講演

- (1) Charles A Herzog, University of Minnesota, Hennepin County Medical Center (USA) “Treatment of atrial fibrillation in dialysis patients”
- (2) Prof. Sydney Tang, Chairman of APCN, University of Hong Kong, “The risk of stroke in CKD and dialysis patients”

### II. シンポジウム

(1) シンポジウム1 “The Status of Renal Replacement Therapy in Non-Western Countries”

- ① Prof. Willy Randriamarotia (Madagascar)
- ② Prof. Magdalena Madero (Mexico)
- ③ Prof. Mustafa Archi (TURKEY)
- ④ Prof Rob Walker (New Zealand)

(2) シンポジウム2 “Selection of renal replacement therapy in each country ; Policy and Practice in each country”

- ① Prof. Sydney Tang (Hong Kong)
- ② Prof. Dusit Lumlertgul (Thai)
- ③ Prof. Torres (Europe)
- ④ Prof. Saran Rajiv (USA)
- ⑤ Prof. Ken Sakai (Japan)

### III. シンポジウム（統計調査委員会との共同企画）

### IV. 一般公演 Free Communications

例年通り、公募を行った。

### V. Farewell Reception

海外からの参加者、演者、国際交流委員、日本透析医学会評議員などの学術交流の場として、大会期間中にFarewell partyを開催する。Welcome Partyについては例年通り、サポートを行う。

### VI. Travel Grant 等

招請講演演者に対しては、欧米演者は講演料2000ドル、交通費5000ドル、アジア演者は1000ドル、交通費3500ドルを支給、シンポジストには欧米演者には講演料1000ドル、交通費3000ドル、アジア演者には講演料10万円、交通費15万円支給することとした。一般演題に関しては、World Bank CriteriaによるLower-middle income countries, Low-income countriesに対して、サポートを厚くすることとした。Lower-middle income countries, Low-income countriesについては年齢制限はなしとし、travel grant 10万円（ただしVISAが必要な国からの場合は旅行保険込み）、Upper-middle-income countries, High-income countriesについては40歳以下を対象として5万円支給することとした。海外から32演題の応募があり、本邦からも30演題の英語での発表の応募があった。

2) 国際交流派遣事業

海外関連学会への交流委員派遣は今年度も見送る予定である。

### 3) その他

国内外で開催される，関連国際学会へ各委員が独自に参加する。

## 8. 評議員選出委員会

評議員の任期は2年であるため，2020年度は選出を行わない。

## 9. 保険委員会

2022年の診療報酬改定に向けて内科系社会保険連合（内保連），外科系社会保険連合（外保連），日本腎臓学会，日本小児腎臓学会，日本アフェリシス学会，日本急性血液浄化学会，日本腹膜透析医学会，日本透析医会，医工学治療学会などと提案項目の検討を行い，内保連および外保連を通じて厚生労働省に提案する。

日本透析医学会保険対策ワーキンググループを保険委員会内に設置しており，将来の透析医療の診療報酬を考え，どのようにエビデンスを構築していくかまで視野を広げ討論している。

2020年の改定では対応を行わないとの評価をうけた下記の4項目については重要であるため2022年改定でも提案し，認められるようにするために活動を継続する。

- ① 血液透析アクセス日常管理加算
- ② 在宅透析患者管理における遠隔モニタリング加算
- ③ 感染症免疫学的検査（HIV抗体測定）
- ④ 血清セレン測定

今まで，透析用カテーテル留置術は診療報酬上は注射の区分（Gコード）に属しており，DPC病院では請求できていなかった。その点を改定すべく，学会として，長期留置カテーテルと短期留置カテーテルのタイムスタディーを施行し，2020年11月の外保連の締め切りまでにデータを取りまとめる。外保連から厚生労働省に申請し，手術区分（Kコード）に再分類されDPC病院でも請求可能になるよう活動をする。

第65回学術集会・総会の保険委員会企画の内容は「新たな診療報酬改定が透析医療に及ぼす影響」と題して，下記のような項目で討議を予定する。

- ① 腎性貧血について
- ② バスキュラーアクセス（VA）について
- ③ 改定導入期加算と療法選択について
- ④ 今回の改定全体について
- ⑤ 透析医会の見解と対策について
- ⑥ 総合討論

## 10. 倫理委員会

- 1) 日本透析医学会として対応すべき倫理に関する課題に対して，適時委員会を開催し審議する。
- 2) 日本透析医学会として対応すべき，研究倫理に関する課題に対して，随時，研究倫理に関する検討小委員会を開催し検討する。
- 3) 個人情報安全管理ならびにその適切な取扱いをするため，個人情報管理者である倫理委員長が個人情報の利用等の管理に適時対処する。

## 11. 腎不全総合対策委員会

本委員会では、10年ぶりに改訂された腎疾患対策検討会の報告書で、CKD発症予防、重症化予防だけでなく、透析・移植患者のQOLの改善も目標として加わったことに鑑み、昨年度より新たな調査研究を複数始めている。今年度は、すでに進行ないし準備完了したプロジェクトを実行するとともに、療法選択の実際に関する新たな観点からの調査研究もスタートさせる。また、学術大会において、「高齢者腎不全対策に関するシンポジウム」を委員会企画として開催する。

### 1) 地域における末期腎不全医療の現状と取り組み

CKD患者において、その進展予防と高齢化が注目されており、専門医の少ない地方においては特に重大な問題となっている。CKD進展予防に関しては、2007年にかかりつけ医を利用者に想定した「CKD診療ガイド」が、さらに改訂された「エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2018」が発刊され、診療の参考にされている。しかしながら、特に、地方においては、初期の腎疾患の管理から腎代替療法の選択と導入に至るまで、非腎臓専門医や、かかりつけ医が関わることも多い。本委員会では、CKD進展予防と高齢患者における適切な療法選択（非導入を含めた）が行われることを目的とし、地域におけるこれらの問題点の現状を把握するために、これまでに、広大な面積をもち、過疎と高齢化が進んだ岩手県を中心に、末期腎不全医療の現状について非腎臓専門かかかりつけ医を対象にアンケート調査を行った。岩手県でのCKDの認知度は、全体の約85%であった。また全体の約70%の医師がCKDガイドラインを認知していたが、そのうちの約55%のみが活用している状況であった。また約20%の医師が透析療法非導入の経験があった。

次のステップとして、各地方における末期腎不全医療の現状を把握すること、これまでの地域とは対照的な、自治体とタイアップしたCKD対策が進んでいる山梨県、熊本県を対象として準備を進めていたが、昨年度中途に地域の担当者が急遽異動したため実施できなかった。今年度は、これを実際に進め、方法：県医師会名簿より抽出した非腎臓専門医が開設している診療所の医師を対象としたアンケート調査を進める。

### 2) 透析患者QOLに関する包括的検討

透析患者のQOL向上のための基盤整備のための基礎資料を収集することを目的に、過去10年間の本邦透析患者を対象としたQOL研究の内容に関して調査を行ったところ、QOL研究は、包括的QOL評価以外に、さまざまな症状を対象にした症状特異的評価が行われており、包括的評価で9種類の、症状特異的で35種類の尺度が使用されていた。今後、使用する尺度に関しては統一・標準化などの整備が必要と考えられた。そこで今年度はさらに進めて、患者QOL向上のための基盤整備のための基礎資料を収集することを目的に、医師と患者を対象にした意識調査を実施する。両者の間の意識乖離の有無を確認することで、QOL向上のための具体的検討事項を整理する。すでに調査内容ならびに用紙は準備されており、倫理委員会の審査後すみやかに送付し、解析を実施する。

### 3) 糖尿病透析患者の血糖管理の状況

糖尿病性腎症からの新規透析導入患者数が第1位であり、透析の臨床において、糖尿病合併患者が増加している。2013年、日本透析医学会から「糖尿病血液透析患者の治療ガイド2012」が発刊された。その中には随時(透析開始前)血糖値の目標値として180~200mg/dL未満が推奨され、中~長期的な指標としてHbA1cではなくGAを用い、20%未満にコントロール(心血管イベントの既往のある場合や低血糖を起こしやすい場合は24%未満)することが推奨されている。保存期糖尿病合併CKD患者の場合、糖尿病医と連携して血糖コントロールが行われていることは多いが、透析領域では糖尿病合併症例が増加しており、血糖管理を全て糖尿病医に委ねるのは困難な現状である。そこで、糖尿病透析患者の血糖管理状況を把握する目的で、「誰(透析医or糖尿病医?)が何を指標(随時or空腹時?, HbA1c or GA?)にどう管理しているのか(糖尿病治療薬の種類とコントロール状況)」に関する実態調査を行うことを目的としている。

現在、郵送するアンケートの内容が確定し、送付が始まるところまで進行しているので、今年度は、これを進め、結果の解析に着手する。

#### 4) 本邦腎代替療法選択説明体制の実態調査

背景：適切な腎代替療法選択には、患者の病態、価値観、生活にあわせた説明と話し合いが十分行われることが必要である。「共同意思決定」プロセスに基づいた透析導入決定が、日本透析医学会や米国腎臓医会 (Renal physicians Association) から推奨されているが、わが国における実態は不明である。本邦の腎代替療法の選択は血液透析に偏っており、腹膜透析、腎臓移植が諸外国に比べ著しく低い。透析導入前の患者に対する情報提供体制、特に共同意思決定の実践が不十分であることが、その一因とも考えられる。今回、透析療法選択にあたっての説明の実態を明らかにするために、以下の調査を行う。

本研究の新規性と特徴としては、1) 共同意思決定評価尺度を用いることで、患者視点で治療法決定プロセスを評価できる。2) 日本透析医学会が実施することで回収率向上が期待される、が挙げられる。

対象：全国の透析導入施設の施設長ならびに新規透析導入患者（透析導入後半年以内）

対象施設は日本透析医学会教育施設で年間新規導入患者が10名以上

方法：施設長ならびに新規透析導入患者に対する質問紙調査

##### (1) 施設に対する主な調査項目

施設規模（総病床数、透析ベッド数）、年間透析導入数と治療法（HD、PD、緊急導入の比率）、維持透析患者数、保存期慢性腎臓病の診療体制（外来の有無）、腎代替療法選択説明に関する特別な体制（外来、定められた手順、説明に用いる統一した教材）の有無、5学会合同の小冊子使用率、共同意思決定（SDM）の認識率

##### (2) 患者に対する主な調査項目

共同意思決定評価尺度（SDMQ9日本語版）、腎臓内科通院期間、治療法（HD、PD）、治療法満足度

##### (3) 解析方法

共同意思決定評価尺度（SDMQ9日本語版）、腎臓内科通院期間、治療法（HD、PD）、治療法満足度

##### (4) 倫理的配慮

日本透析医学会倫理委員会で承認のうえ実施。研究目的・内容は参加施設・患者に文書で説明するとともに、アンケート用紙回答をもって研究参加に同意したとみなすことを明記。

#### 5) 高齢者腎不全対策に関するシンポジウム

現在、日本透析医学会の「意思決定プロセスに関する提言」が作成中であるが、2020年度の第65回学術集会・総会において、高齢者腎不全対策「高齢者腎不全医療の現在と未来」をシンポジウムとして企画した。高齢者腎不全対策シンポジウムは、日本腎臓学会から柏原直樹理事長、岡田浩一先生、日本腎不全看護学会からは内田明子氏、日本在宅医療連合会からは三浦久幸先生に依頼した。高齢者腎不全医療におけるSDM ACP、予後調査、アンケート調査、在宅医療について話し合われる予定である。

## 12. 危機管理委員会

### 1) 危機管理委員会

(1) 透析医療における安全管理、災害と透析医療をテーマとした学術活動を行う。

(2) 医療安全、災害対策に関して、日本透析医会、日本腎臓学会、日本腎不全看護学会、日本臨床工学技士会などの関連団体と緊密に連携する。

### 2) 災害対策小委員会（山川智之小委員長）

(1) 第65回学術集会・総会（2020年6月12日～14日、大阪国際会議場ほか）において、災害に関する危機管理委員会企画を行う。テーマは「透析災害対策のアップデート」とし、以下の内容で行う。さらに、その内容を委員会報告としてまとめて透析会誌に掲載する。

司会：山川智之、鶴屋和彦

## 演者

- ① 赤塚東司雄（赤塚クリニック）透析災害対策の新たな方向性
  - ② 佐久間宏治（さとうクリニック）台風 15 号による千葉県下透析施設の被害とその対応
  - ③ 花房規男（東京女子医科大学）東京都の大規模水害に対する想定と対応
  - ④ 山川智之（仁真会白鷺病院）火山災害と透析医療
  - ⑤ 川崎路浩（神奈川工科大学臨床工学科）Tokyo DIEMAS（緊急時透析情報共有マッピングシステム）の運用と課題
  - ⑥ 雨宮守正（さいたま赤十字病院）院内電子システムの停電対応
- (2) 引き続き、統計調査委員会へ委員を派遣し、災害の透析患者の病態、生命予後に与える影響について解析する。
- (3) 2011 年末に統計調査で行った透析医療の災害対策に関する対応状況の調査を基に、10 年後の 2021 年末に再調査をする方向で統計調査委員会に要望する。
- (4) 日本透析医学会の理事、危機管理委員会、統計調査委員会、地域協力員は引き続き日本透析医会の災害対策メーリングリストに参加し、災害時の緊急情報の共有ならびに支援体制の構築にむけて関連団体と協力する。
- 3) 医療安全対策小委員会（満生浩司小委員長）
- (1) 第 65 回学術集会・総会（2020 年 6 月 12 日～14 日、大阪国際会議場）において、医療安全に関する教育講演を以下の内容で行う。
- 座長：満生浩司  
演者：後信（九州大学病院医療安全管理部）
- (2) 医療事故調査報告制度に協力団体として、センター調査などを担当する。
- (3) 医療事故調査委員を各都道府県に配置し、必要に応じて委員の更新を行う。
- (4) 厚生労働省などから報告される薬剤・医療器具などに関する緊急安全情報の中で、透析医療に関わるものについて、日本透析医学会ホームページを利用して会員に周知を図る。

## 13. 研究者の利益相反等検討委員会

「日本透析医学会における医学研究の利益相反（COI）に関する指針」に基づき、会員の利益相反状態に関連した以下の事項について実施する。

- 1) 会員が総会等で発表する利益相反状態に関する情報開示
- 2) 会員が学会誌に投稿する際の利益相反状態に関する報告書の提出
- 3) 本学会の役員（理事長、理事、監事）、総会会長、委員会会長、特定の委員会並びにその作業部会委員の利益相反状態に関する自己申告書の提出
- 4) その他、会員に関連した利益相反状態や、自己申告内容に関する管理を必要に応じて行う。
- 5) 理事長の諮問により利益相反状態の問題の有無・程度の検討、審査請求に関する判断マネジメントを行う。
- 6) 日本医学会 COI 管理部会等の講演会、会議に学会として出席し、最新情報を得る。
- 7) 本学会が作成する臨床ガイドラインについては、作成ワーキンググループのメンバー（外部委員を含む）が中立性と公明性をもって作成業務を遂行するために、問題となる利益相反状態の調査を勧告する。ガイドラインには「利益相反情報についての開示」に記載を促し、これを裏付けるすべての情報は日本透析医学会事務局で保管する。

## 文献

日本透析医学会：日本透析医学会における医学研究の利益相反（COI）に関する指針、2011：  
<http://www.jsdt.or.jp/jsdt/1370.html>

## 14. 男女共同参画推進委員会

### 1) 男女共同参画推進委員会

日本臨床工学技士会，日本腎臓病薬物療法学会，日本腎不全看護学会，日本病態栄養学会と共同し男女共同参画活動を進める。日本透析医学会ホームページの男女共同参画推進委員会の項の拡充を図る。多職種の男女共同参画に関する小委員会，女性医師育成小委員会の活動内容を掲載する。透析分野における男女共同参画の現況，展望についての寄稿，編集を進める。

### 2) 小委員会

#### (1) 多職種の男女共同参画に関する小委員会

日本臨床工学技士会，日本腎臓病薬物療法学会，日本腎不全看護学会，日本病態栄養学会のそれぞれと共同し働き方改革について各学会の現状と思索を検討する。第66回学術集会・総会の議題とする。

#### (2) 女性医師育成小委員会

##### I. 「TSUBASA PROJECT」

第65回学術集会・総会において，委員会企画「TSUBASA PROJECT」を開催する。発表した内容は論文化し，日本透析医学会ホームページに掲載するとともに，日本透析医学会雑誌あるいはRRTへ投稿する。第5回TSUBASA PROJECTを企画する。企画内容は以下に示す。

##### 第5回TSUBASA PROJECTについて

研究課題：透析患者のGenderに関する研究

研究期間：2年間

募集形式：公募，年次募集

募集人数：最大4名

公募期間：2020年6月1日から2020年8月末日

応募資格：日本透析医学会の女性正会員，応募時点で他の研究助成を受けていないこと。

協力者：参加希望者は研究協力者（主に，参加者施設の指導医師）を指名し，研究協力者と共に課題研究ができる。

参加者選択：女性医師育成小委員会委員

研究支援：

① 女性医師育成小委員会委員，協力者の研究指導

② 一人一件あたり50万円までの研究助成を行う。

TSUBASA PROJECT事業として下記の科目で2020年度概算要求する。

なお，この概算要求経費は個々に研究費として配分はしない。

概算要求経費の詳細

通信運搬費：委員から参加者へ通信費，アンケートの配付・回収

委託費：検査測定，翻訳・校正費，アンケートの解析

諸謝金：専門的知識の提供

支払負担金：研究成果発表費用

TSUBASA PROJECTの公報について

日本透析医学会のホームページにアップするとともにバナーにも掲載依頼し，第65回学術集会・総会にブース設置とポスター掲載をする。ポスター作成費は2020年度概算要求する。

##### II. 2020年度透析専門医勤務状況—透析療法領域における男女共同参画実態調査—

2019年度に実施予定されていた「透析医療に従事する医師の働き方に関する実態調査」のアンケート調査は，上記の実態調査として総務委員会と合同で実施する。

アンケート調査は送付，回収，解析，論文化し，学会誌に掲載する。